

第171回 都市懇サロン レポート	地域活性化に向けて ～都市の再構築戦略～		
講 師	国土交通省 都市局 まちづくり 推進課 室長 佐藤哲也	開 催 日	平成 25 年 5 月 14 日(火) 18:00～20:00
講 師 プロフィール	1986 (昭和 61)年 3 月 東京工業大学工学部 土木工学 科 卒業 2012 (平成 24)年 4 月 現職		
お話の概要	<p>国土交通省都市局における、地方都市の活力の維持・向上、大都市の国際競争力強化等に向けた検討（都市再構築戦略検討委員会）や中心市街地活性化策の見直し状況、都市の活力の維持・向上策について紹介いただいた。</p> <p>◆都市再構築戦略検討委員会（国土交通省） ⇒これまで3回開催（6月下旬中間取りまとめ） ・現在、都市再構築戦略（リノベーションプラン）の策定に向けて、「大都市」・「地方都市」の視点から現状整理・議論の論点整理を行っている。 ・地方都市のリノベーションに向けたモデル都市（ケーススタディ）を選定し調査分析等を行うこととしている。</p> <p>◆中心市街地活性化 評価・調査委員会（内閣官房） ⇒これまで3回開催（6月をめぐりに報告書取りまとめ） ・今後の中心市街地活性化施策の方向性について中間的論点整理を行っている。 ・中心市街地を巡る状況・課題を踏まえ、今後の中心市街地活のための施策の検討課題を「中心市街地活性化スキーム」「制度的論点」等の観点から検討している</p> <p>◆産業構造審議会 中心市街地活性化小委員会（経済産業省） ⇒これまで全5回開催（5月下旬最終取りまとめ案）</p>		
意見交換 の概要	<p>◇スマートシュリンクを進めるためにはどうすべきか。 ⇒市街地外から中心市街地に施設を移転した場合、従前地にまた集客施設ができては仕方がない。一方、あまり規制すると従前地が使えない。従前地支援の仕組みが必要。 ⇒逆線引きでなくても中心市街地に住む人が増えれば良い。「市街地外に住んでも構わないがサービスは中心市街地である」という行政意思を示すことが重要。 ⇒富山市のコンパクトシティが有名だが、中心部だけに金を使って良いかという意見もある。市長のリーダーシップに頼るのは都市計画の負け。「金をかけるべきところ」「現状維持」「ダメなところ」に再整理することも良いのでは。 ⇒地区計画などにより住民に対して選択権を与えることも考えられる。中心市街地のメリットを感じるような施策が必要。 ⇒タイでは市街地の浸水防止を最優先としてディテンションエリアを設定している。スマートシュリンクに向けた様々な方向性の中で、優先順位を見定めることが重要。</p> <p>◇コンパクトシティ化が進まない理由に空き家問題があげられるが、倒壊の恐れのない空き家（住宅）の問題点は？ ⇒コミュニティの問題、防犯の危険性。建て替え（新規入居）が進まないなど。 ⇒川越など空き家を残す要望もある。一概に解消すべきということではない。</p>		
記録者の ひとこと	<p>今後の中心市街地活性化や都市の活力の維持向上に向けて、国の動きを幅広く情報提供をしていただいた。意見交換についても活発な意見が出された。各分野の方々により幅広い視点で交流される貴重な機会であり、今後もこのような場を提供することが必要だと感じた。</p> <p style="text-align: right;">《都市懇サロン運営部会 委員 苅込渉》</p>		